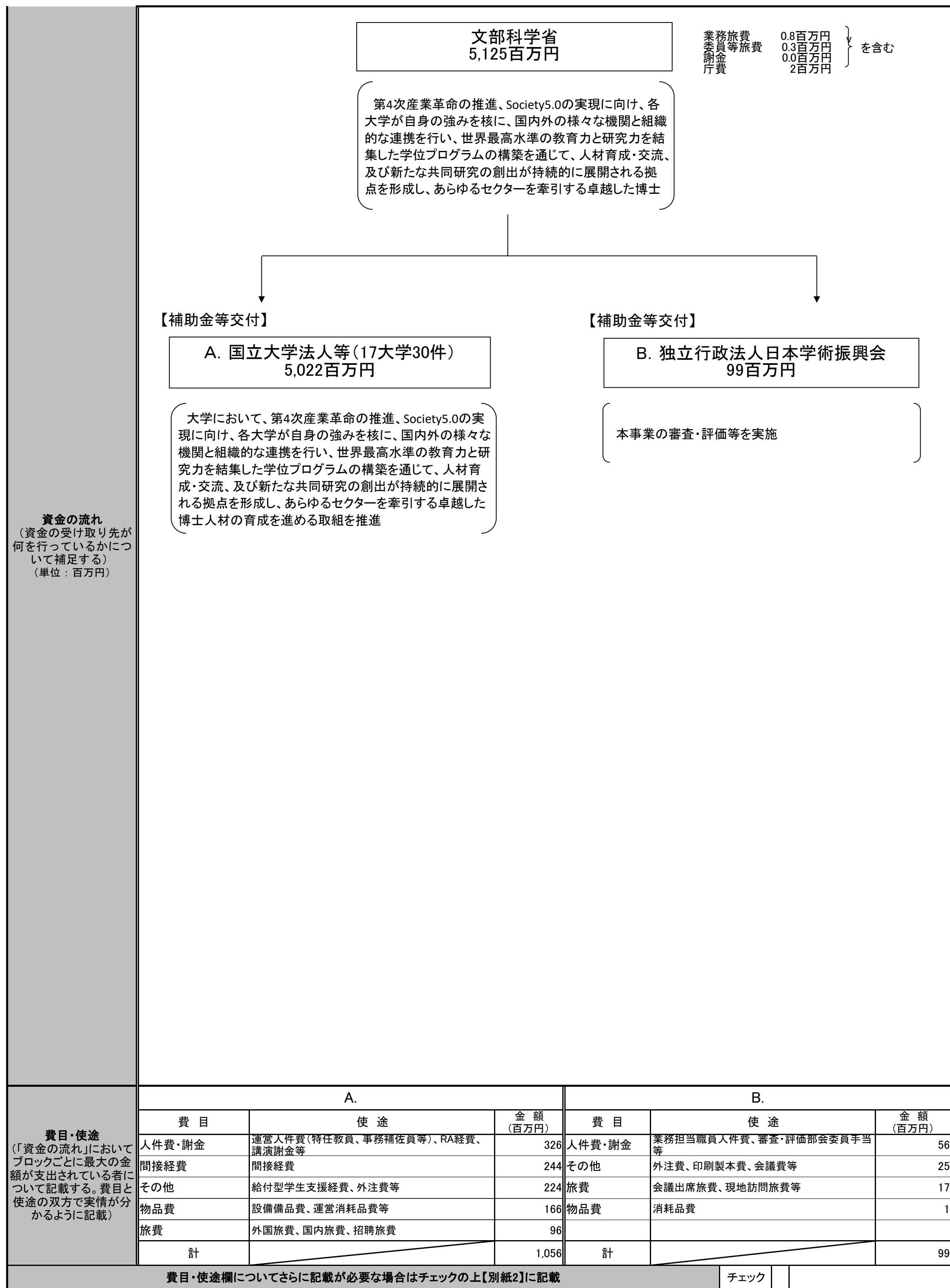


	令和5年度行政事業レビューシート					(文部科学省)	
事業名	卓越大学院プログラム			担当部局庁	高等教育局		作成責任者
事業開始年度	平成30年度	事業終了 (予定)年度	令和8年度	担当課室	高等教育企画課		高等教育企画課長 小幡 泰弘
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する 計画、通知等	・日本再興戦略改訂2015—未来への投資・生産性革命—(平成27年6月30日閣議決定) ・未来を牽引する大学院教育改革～社会と協働した「知のプロフェッショナル」の育成～(審議まとめ)(平成27年9月15日中央 教育審議会大学分科会決定) ・第5期科学技術基本計画(平成28年1月22日閣議決定) ・成長戦略実行計画(令和元年6月21日閣議決定) ・統合イノベーション戦略2020(令和2年7月17日閣議決定) ・成長戦略フォローアップ(令和3年6月18日閣議決定) など		
政策	4 個性が輝く高等教育の振興			主要経費	教育振興助成費		
施策	4-1 大学などにおける教育研究の質の向上						
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20221215-mxt_kanseisk01-000026547-16.pdf						
事業の目的 (5行程度以内)	本事業は、新たな知の創造と活用を主導し、次代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材(高度な「知のプロフェッショナル」)を育成することで、将来にわたる我が国の知的創造力や学術・科学技術イノベーションを含む国際競争力の増加に資することを目的としている。						
現状・課題 (5行程度以内)	優秀な日本人の若者が博士課程に進学しない「博士離れ」の状況が、我が国の知的創造力を将来にわたって低下させ、学術や科学技術イノベーションを含めた国際競争力の地盤沈下をもたらしかねない状況に対応する必要がある(※)。 そのため、経済・社会の変化が急速に進む中で世界の産業構造を捉え、将来の新たな基幹産業を我が国が主導して創出(Society5.0社会の実現)することが求められ、大学院には、その源となる知や技術を生み出すとともに、社会的価値に繋げることができる人材の輩出が求められる。 (※)人口100万人当たりの博士号取得者数の国際比較【出典:科学技術・学術政策研究所、科学技術指標2021、調査資料-311、2021年8月】 日本:131人(2008年)→120人(2018年) アメリカ:205人(2008年)→281人(2018年) ドイツ:312人(2008年)→336人(2018年) イギリス:286人(2008年)→375人(2018年) 韓国:191人(2008年)→296人(2018年)						
事業概要 (5行程度以内)	各大学が自身の強みを核に、国内外の様々な機関と組織的な連携を行い、世界最高水準の教育力と研究力を結集した世界に通用する質の保証された5年一貫の博士課程学位プログラムの構築を通じて、人材育成・交流、及び新たな共同研究の創出が持続的に展開される拠点を形成し、あらゆるセクターを牽引する卓越した博士人材の育成を進める取組を支援する。						
事業概要URL	https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/takuetudaigakuin/						
実施方法	補助						
補助率等	定額補助						
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
	予算の 状況	当初予算(A)	7,752	6,038	5,033	4,342	3,620
		補正予算(B)	-	-	-	-	
						-	
						-	
						-	
						-	
						-	
		前年度から繰越し(C)	18	100	100	4	-
		翌年度へ繰越し(D)	▲ 100	▲ 100	▲ 4	-	
		予備費等(E)	-	-	-	-	
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	7,670	6,038	5,129	4,346	3,620	
	執行額(G)		7,304	6,036	5,125		
	執行率(%) =(G)/(F)		95%	100%	100%		
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		94%	100%	102%		
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
	(項)	高等教育振興費			事業の継続性・発展性の確保のため、事業の進捗に併せて計画的に補助金額を逡減しているため。		
	(目)	研究拠点形成費等補助金	4,337	3,615			
	(目)	研究拠点形成費等業務庁費	3	3			
	(目)	研究拠点形成費等業務旅費	2	2			
	(目)	研究拠点形成等委員等旅費	0.3	0.3			
		その他	▲ 0	▲ 0			
	計(A)		4,342	3,620			

活動内容① (アクティビティ)		多様なセクターとの「組織」対「組織」の連携により、産学共同研究の場への博士課程学生の効果的な参画等といった人材育成・交流及び新たな共同研究の創出がなされ、補助期間終了後もプログラムの継続・発展を図るため外部機関による積極的な投資等により持続的に展開される博士課程学位プログラム構築・展開を支援。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		多様なセクターとの「組織」対「組織」の連携のもと、各大学の特色・強みを生かした独自の構想に基づく博士課程の学位プログラムの構築・展開	プログラム実施件数	活動実績	件	30	30	30	－	－
				当初見込み	件	31	30	30	30	30
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	各プログラムにおいて、国内外のトップ大学等の多様なセクターとの「組織」対「組織」連携のもと、独創的な教育研究がなされる優秀な教員・研究者・学生が結集した環境が、事業実施期間途中の相手「組織」との関係変化やこの間に生じた特殊要因(例えば新型コロナウイルス感染症拡大に伴う海外渡航制限)などを経た上でも継続的・発展的に構築され、本事業により適切に遂行されていることを確認する観点から設定。 なお、本指標は、「経済・財政再生計画 改革工程表2017改定版」(平成29年12月21日)において、「卓越大学院プログラム及び博士課程教育リーディングプログラムKPI(第一階層)」の国際協働に関する測定指標としており、公募要領でも全ての採択プログラムで測定指標として設定することとしている。								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度	
		各プログラムにおいて国内外のトップ大学等の多様なセクターと「組織」対「組織」の連携を図り、独創的な教育研究がなされる優秀な教員・研究者・学生が結集した環境を構築	各プログラムにおける国際連携に係る海外大学との連携数(各プログラムの平均値)	成果実績	機関	9	9.6	10.1	－	
				目標値	機関	5.4	6.2	7.2	7.9	
				達成度	%	166.7	154.8	140.3	－	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		卓越大学院プログラム実施状況調査 ※目標値は事業選定大学の事業計画を踏まえて決定。								
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	各プログラムにおいて、国内外のトップ大学等の多様なセクターとの「組織」対「組織」連携のもと、独創的な教育研究がなされる優秀な教員・研究者・学生が結集した環境が、事業実施期間途中の相手「組織」との関係変化やこの間に生じた特殊要因(例えば新型コロナウイルス感染症拡大に伴う海外渡航制限)などを経た上でも継続的・発展的に構築され、本事業により適切に遂行されていることをプログラム担当者という教育研究指導を主体的に担う者の観点から確認するために設定。								
成果目標及び成果実績 ①-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6 年度	
		各プログラムにおいて国内外のトップ大学等の多様なセクターと「組織」対「組織」の連携を図り、独創的な教育研究がなされる優秀な教員・研究者・学生が結集した環境を構築	定量的な成果指標:「既存の研究科等や機関の枠を超え、博士課程前期・後期一貫した体系的な教育課程の編成による高度な研究を通じた組織的な教育が行われている」という設問に対する『非常にそう思う』『そう思う』の回答割合	成果実績	%	－	95	94	－	
				目標値	%	－	－	95	95	
				達成度	%	－	－	98.9	－	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		卓越大学院プログラム 中間評価におけるプログラム担当者アンケート調査 ※中間評価は採択4年度目に実施されており、平成30～令和2年度の各採択プログラムに対し、令和3～5年度にかけて実施中。実績は過年度実績を積み上げた上、100%換算したものを算出。なお、採択7年度目には事後評価を実施予定(実施予定年度:令和6～8年度)であり、その際同様のアンケート調査を実施することにより、中期アウトカムとして引き続き捕捉予定。 ※「プログラム担当者」とは、プログラムに属する学生の研究指導や学位審査等の質保証、あるいは履修支援やキャリア形成等を総括し、プログラムの実施を責任ある立場で主体的に担う者(所属大学のみならず、連携先機関となる外部機関所属の者も含む)を指す。 ※目標値は直近成果実績のうち最も高い値以上とすることを設定。								
↓	成果目標①-3の 設定理由 (長期アウトカムへのつながり)	各プログラムにおいて、補助期間終了後にも人材育成・交流及び新たな共同研究が持続的に展開される拠点の構築に向けた取組として、例えば海外大学含む他機関との共同研究の着実な実施や収入獲得及び運営への資金活用といった、運営の自走化に向けた取組が着実に遂行されていること確認する観点から設定。 なお、本指標は、「経済・財政再生計画 改革工程表2017改定版」(平成29年12月21日)において、「卓越大学院プログラム及び博士課程教育リーディングプログラムKPI(第一階層)」の社会との連携に関する測定指標としており、公募要領でも全ての採択プログラムで測定指標として設定することとしている。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 8 年度	
		各プログラムにおいて補助期間終了後にも人材育成・交流及び新たな共同研究が持続的に展開される拠点を構築	各プログラム運営における外部資金(共同研究収入、寄付金収入、産業連携等収入等)の活用状況(各プログラムの平均値)	成果実績	千円	52,931	83,584	106,837	－	
				目標値	千円	47,566	74,324	95,133	124,591	
				達成度	%	111.3	112.5	112.3	－	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		卓越大学院プログラム実施状況調査 ※目標値は事業選定大学の事業計画を踏まえて決定。								
アウトカム設定についての説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		－								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
		－								

活動内容② (アクティビティ)		各大学が自身の強みを核に、国内外の様々な機関と組織的な連携を行い、世界最高水準の教育力と研究力を結集した学位プログラムの構築を通じて、人材育成・交流、及び新たな共同研究の創出が持続的に展開される拠点を形成し、あらゆるセクターを牽引する卓越した博士人材の育成を進める取組への支援。								
↓										
活動目標及び活動実績 ② (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		あらゆるセクターで活躍できる博士人材を輩出するための、持続的な拠点運営のサイクル構築の支援	プログラム実施件数	活動実績	件	30	30	30	－	－
				当初見込み	件	31	30	30	30	30
↓	成果目標②-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	本事業により構築する、博士課程前期・後期課程一貫した質の保証された学位プログラムによる教育研究指導や学位審査等質保証を受けた、あらゆるセクターを牽引する高度な「知のプロフェッショナル」となりうる人材の輩出(※)が計画通りなされているかを確認する観点から設定。 (※)本事業により構築されるプログラムの修了とは、通常の修士課程及び博士課程の修了要件に加え、高度な「知のプロフェッショナル」となるに相応しい資質能力を保証するために、各プログラムが独自に構築する質保証システム(独自のQualifying Examinationや学位審査プロセス等)を経たものを意味しており、修了に至るまでのハードル自体が高いものである。								
成果目標及び成果実績 ②-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度	
		構築された学位プログラムによる教育研究指導や学位審査等質保証を受けた、あらゆるセクターを牽引する高度な「知のプロフェッショナル」となりうる人材の輩出	プログラム修了学生数	成果実績	人	－	－	353	－	
				目標値	人	－	－	252	531	
				達成度	%	－	－	140.1	－	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		卓越大学院プログラム実施状況調査 ※目標値は事業選定大学の事業計画を踏まえて決定。 ※平成30年度から開始した5年一貫の博士課程学位プログラムの構築を目的とする事業であるため、本事業により構築されるプログラム修了生の本格輩出は令和4年度以降となる。								
↓	成果目標②-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	本事業により構築する、博士課程前期・後期課程一貫した質の保証された学位プログラムによる教育研究指導や学位審査等質保証を受けた、あらゆるセクターを牽引する高度な「知のプロフェッショナル」となりうる人材の輩出(※)が計画通りなされているか、プログラム担当者という教育研究指導を主体的に担う者の観点から確認するために設定。 (※)本事業により構築されるプログラムの修了とは、通常の修士課程及び博士課程の修了要件に加え、高度な「知のプロフェッショナル」となるに相応しい資質能力を保証するために、各プログラムが独自に構築する質保証システム(独自のQualifying Examinationや学位審査プロセス等)を経たものを意味しており、修了に至るまでのハードル自体が高いものである。								
成果目標及び成果実績 ②-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6 年度	
		構築された学位プログラムによる教育研究指導や学位審査等質保証を受けた、あらゆるセクターを牽引する高度な「知のプロフェッショナル」となりうる人材の輩出	「学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を輩出する見込みがある」という設問に対する『非常にそう思う』『そう思う』の回答割合	成果実績	%	－	94	92	－	
				目標値	%	－	－	94	94	
				達成度	%	－	－	97.9	－	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		卓越大学院プログラム 中間評価におけるプログラム担当者アンケート調査 ※中間評価は採択4年度目に実施されており、平成30～令和2年度の各採択プログラムに対し、令和3～5年度にかけて実施中。実績は過年度実績を積み上げた上、100%換算したものを算出。なお、採択7年度目には事後評価を実施予定(実施予定年度:令和6～8年度)であり、その際同様のアンケート調査を実施することにより、中期アウトカムとして引き続き捕捉予定。 ※「プログラム担当者」とは、プログラムに属する学生の研究指導や学位審査等の質保証、あるいは履修支援やキャリア形成等を総括し、プログラムの実施を責任ある立場で主体的に担う者(所属大学のみならず、連携先機関となる外部機関所属の者も含む)を指す。 ※目標値は直近成果実績のうち最も高い値以上とすることを設定。								
↓	成果目標②-3の 設定理由 (長期アウトカムへのつながり)	本事業により構築する、博士課程前期・後期課程一貫した質の保証された学位プログラムによる教育研究指導や学位審査等質保証を受けた学生が、本事業趣旨である高度な「知のプロフェッショナル」としての修了後の活躍状況を確認していることを確認する観点から設定。 なお、本指標は、「経済・財政再生計画 改革工程表2017改定版」(平成29年12月21日)において、「卓越大学院プログラム及び博士課程教育リーディングプログラムKPI(第一階層)」の修了生の活動状況に関する測定指標としており、公募要領でも全ての採択プログラムで測定指標として設定することとしている。								
成果目標及び成果実績 ②-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 8 年度	
		あらゆるセクターを牽引する卓越した博士人材としてのプログラム修了生の活躍	プログラム修了生による優れた研究成果による受賞実績等(学会発表、論文発表、ジャーナル掲載、受賞)の数	成果実績	件	－	－	913	－	
				目標値	件	－	－	195	782	
				達成度	%	－	－	468.2	－	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		卓越大学院プログラム実施状況調査 ※目標値は事業選定大学の事業計画を踏まえて決定。 ※平成30年度から開始した5年一貫の博士課程学位プログラムの構築を目的とする事業であるため、本事業により構築されるプログラム修了生の本格輩出は令和4年度以降となる。								
アウトカム設定についての説明		アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由								
		－								
		アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由								
		－								



支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国立大学法人東海国立大学機構	3180005006071	「ライフスタイル革命のための超学際移動イノベーション人材養成学位プログラム」外3件のプログラム構築・展開	1,056	補助金等交付	-	-	-
2	国立大学法人東京大学	5010005007398	「変革を駆動する先端物理・数学プログラム」外2件のプログラム構築・展開	884	補助金等交付	-	-	-
3	国立大学法人東京工業大学	9013205001282	「マルチスコープ・エネルギー卓越人材」外2件のプログラム構築・展開	614	補助金等交付	-	-	-
4	国立大学法人東北大学	7370005002147	「人工知能エレクトロニクス卓越大学院プログラム」外2件のプログラム構築・展開	454	補助金等交付	-	-	-
5	国立大学法人京都大学	3130005005532	「メディカルイノベーション大学院プログラム」外2件のプログラム構築・展開	310	補助金等交付	-	-	-
6	国立大学法人筑波大学	5050005005266	「ヒューマニクス学位プログラム」のプログラム構築・展開	248	補助金等交付	-	-	-
7	学校法人早稲田大学	5011105000953	「パワー・エネルギー・プロフェッショナル育成プログラム」のプログラム構築・展開	246	補助金等交付	-	-	-
8	国立大学法人千葉大学	2040005001905	「革新医療創生CHIBA卓越大学院」外1件のプログラム構築・展開	215	補助金等交付	-	-	-
9	国立大学法人長岡技術科学大学	7110005012080	「グローバル超実践ルートテクノロジープログラム」のプログラム構築・展開	201	補助金等交付	-	-	-
10	国立大学法人北海道大学	6430005004014	「One Healthフロンティア卓越大学院」のプログラム構築・展開	122	補助金等交付	-	-	-

B

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	独立行政法人日本学術振興会	1010005006890	審査・評価等業務	99	補助金等交付	-	-	-